

平成31年1月18日

第3回 南相馬市総合教育会議

南 相 馬 市

第3回 南相馬市総合教育会議 会議録

- 1 開催日 平成31年1月18日(金)
- 2 場所 市役所 本庁舎4階 議員控室
- 3 会議時間 開会 午後 4時15分
閉会 午後 5時15分
- 4 出席者
市長 門馬 和夫
教育長 大和田 博行
教育長職務代理人 大石 力彌
委員 渡辺 金作
委員 濱須 弘仲
- 5 欠席者(1名)
委員 高野 恵以子
- 6 説明のため出席した者の職氏名
(復興企画部)
復興企画部長 庄子 まゆみ 企画課長 門馬 哲也
企画係長 藤原 央行 企画係副主査 鈴木 啓太
(教育委員会事務局)
教育委員会事務局長 木村 浩之 次長兼教育総務課長 木幡 藤夫
課長補佐兼総務係長 佐藤 克巳 教育環境創造担当係長 志賀 和浩
参事兼学校教育課長 松本 浩一 教育支援担当課長 戸浪 誠
参事兼指導主事 伏見 伸一郎 幼児教育課長 猪狩 忠信
文化財課長 堀 耕平 中央図書館長 堀川 信浩
- 7 傍聴者(2名)
- 8 本日の会議に付した協議事項等
(1) 平成31年度 主要な教育施策(案)について
(2) その他

【配布資料】 別添のとおり
平成31年度主要な教育施策(案)について
平成31年度教育委員会事務局主要事業一覧
参考資料 南相馬市復興総合計画 後期基本計画(案)概要版

午後4時15分 開会

企画課長

それではご案内の時間になりましたので、只今より平成30年度第3回南相馬市総合教育会議を開催いたします。

本日進行を務めさせていただきます企画課長の門馬と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに市長よりご挨拶申し上げます。

市長

本年度、第3回総合教育会議、委員の皆様には、日頃より教育委員会並びにこうした総合教育会議にご尽力いただいておりますこと、改めて御礼申し上げます。

今日は、次年度に向けての事業計画あるいは総合計画での教育関係の施策についての意見交換をさせていただき予定であります。先ほど、実は、総合計画審議会から答申をいただきました。

「南相馬市復興総合計画後期基本計画（案）について、原案に同意いたします。なお、当審議会の審議過程で付された意見を十分に踏まえ計画を推進すること。」というようご意見をいただきながら答申をいただいている状況であります。

今回の総合計画につきましては、パブリックコメントでも146件のご意見ということで、かなりいろいろなご意見を賜りました。

また、それに伴いまして、計画についてもかなりご意見を反映した内容となっております。また、先ほど申し上げました審議会の中でも様々なご意見、ペーパーになってない部分でご意見がありますので、記録等を見ながら対応してまいりたいというふうに思っております。

改めて、今の状況を若干ご報告といいますが、実は、ちょっと象徴的だなと思ってるんですけど、ここ二週間ぐらい、今週、来週ぐらいで、国の関係が本当に多くの省庁の皆さんがおいでになっています。昨日は、農水省の政務官、今日は、環境省の政務官と復興庁の副大臣、来週は総務大臣とか復興大臣が見えることになっております。

その皆さんの大きなポイントは、一つは小高の復興です。来週に小高の復興拠点が開所いたします。そんなこともあって関連して視察とか状況を見に来るといような点が一つ。

もう一つは、ロボットテストフィールドです。あそこで行われている色んな世界初、日本初の取組等の状況を、間近に見たいということでおいでになってるというふうに理解しております。

今回の総合計画についても、小高区の再興、避難指示区域の復興をどうするかという点と、ロボットテストフィールドをいかに南相馬市の復興に生かしていくかということ、震災後10年間を迎える、この4年間を特別な事情として挙げております。

まさに今の視察状況を見ると、国が今こちらを向いているうちに、どう復興に向けた確かな手が打てるかなというふうに思っているところであります。

加えまして、本来の総合計画の本文につきましては、最初に教育の振興といいますが、教育問題を一番に掲げさせていただきました。これからの中長期的なまちづくりのためには教育・子育て、これが大事だという想いで、こういう順番で掲載させていただいておりますので、これまでどおりといいますが、これまでいろいろなご意見賜りました。

また、今日も忌憚のない色々なご意見賜りませばありがたく思います。本日は誠にありがとうございます。

企画課長

はい、ありがとうございました。

続きまして次第3「出席者の紹介」に入ります。出席者につきましては、次第の裏面に名簿がございます。そちらをもって代えさせていただきたいと思います。

続きまして次第4「協議事項」に入らせていただきます。

南相馬市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により、これより市長が議長となり進行することとなりますので、どうぞよろしく願いいたします。

市長

はい、それでは暫時の間、進行役を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。

協議事項に入る前に、平成31年度からの教育施策については、現在策定中の「南相馬市復興総合計画後期基本計画」の体系に基づいて事業展開を図りますので、その後期基本計画の案の概要について、担当からまず説明させます。

担当の説明を求めます。

(企画課長 説明)

市長

はい、ありがとうございます。

では、協議事項に移りますが、初めに、教育長より教育施策について若干ご説明お願いできればと思います。

(教育長 説明)

市長

それでは、一通り説明いたしました。

皆様から、平成31年度の主要な教育施策の案について、意見交換を進めてまいりたいと思います。いかがでしょうか。

渡辺委員

重点戦略4「一円融合のコミュニティづくり」というところにある「戦略の主な背景」というところなんですけども、昨年、部落で集まったときに、まさにこの3つですね、これまでの地域活動が困難になっているというのが、そのとおりです。

私も、氏子総代という役割を仰せつかったんですが、部落の神社が、地震によって、また原発により立ち入り禁止ということが続いたために老化して、この神社をどうしようかとなりました。今までのようなことが出来なくなっている。

それにつけても、若い人たちがいないというわけです。私は、間もなく古希になりますが、私が一番その中で若い年齢になっています。

まさに、若い人たちが今、周りを見渡してもいない。あと、隣組というのも色々再編成をしなければ、だいが私の組は、小高の人口の約一割を占めている部落であるんですが、人がいないために再編成をしなければならぬ時期に来ているということだ

す。

3つ目が、深刻なのが消防団員ですね。数名しか若い人がいない。火事が起きたらどうするんだろうということが中にあります。

やはり若い人ですね、若者がもう一度戻れるような対策といったようなものが必要なんだなと痛感したところです。

かと言って、すぐ戻って来れるわけではありません。市長さんをはじめ、いろいろと皆さんご尽力していただいている中の施策であります、できることから少しずつ時間がかかるかと、ここ1、2年で出来るようなものもないだろうと思います。

若い人が集まれば、子どもがまた増えるという、安心して暮らせるようなまちづくりといいますか、南相馬市の方にも、人たちによって温度差が感じられることがあるもんですから、みんなで力を合わせて進めていかなければならないなと思ったところです。

市長

ありがとうございます。私もまさに同じ思いで、この一円融合のコミュニティづくりというふうに挙げているんですが、やっぱり地域による違いというのもありますよね。

基本的に、隣組とか行政区の結びつきが、希薄になってるといえるのはあるかも分かりませんが、こと小高に関しては、それ以前に地域のコミュニティそのものが、13,000人で行っていた行事とか何かが、3,000人でやろう。特に若い人が半分減っている中で。

だから、絶対的に希薄になってるところもあれば、町場が、そもそもそんなにコミュニティが強いところでは無かったのかもしれませんが、それが、ますます希薄になっている。

今、移動で新しい人が、あるいは近隣の町村から来た人がいる。そういうところで、南相馬市の良いところというか、隣組を大事にして、これをベースにやっていくんだということを、改めて一からみんなで、そこの辺の話し合いというか意識から入った方がいいんだろうなということで、まずは隣組に入ってもらおうということです。何がいいのかというのを、そこがスタートとなるところです。

この前の小高で説明会やったときにうれしい話がありました。70過ぎくらいの方が、私たちもやるからと言ってもらったんです。色々やりたいと。一緒にやりましょうというか、できることやるから、そういったもの地域の課題解決も含めて、一緒に使ってくれというか、そんな趣旨のお話がありました。

まさに、定年制、間違いなく5歳延長になります。それと同時に、高齢者が守られるべき対象ではなくて、高齢者が生きがいをもって活躍できるような仕組みを、小高をスタートに作りたいと思っています。

高齢者の人が1日1時間でもいい、2週間のうち1日でもいいから何かちょっとみんなのために手伝う、そういったものをどういうふうに集めていかなと思ったけど、そんな話し合いを、急ぎ土壌を作りあげていきたいなと思っております。

皆さん方には、きっと色々のご協力というか、やりがいのあるような仕事というか、そういう内容が見つければいいなと思っております。そんなことを進めてまいりたいと思います。

濱須委員

今回、新規の事業として、政策の柱「教育・子育て」、基本施策「学校教育」の中

の、施策「教育水準の向上」ということで、新しい予算として学力向上教員の配置ということで、予算つけていただいて、非常に大事な事業かなというふうに思っています。

今回、数学の教員を配置するというようなことで、全国並みに水準を上げていくというように、子どもの教育にとって非常に大事なことかなというふうに私も思っています。新しい事業で予算を取っていただいたということで非常にありがたいというふうに思います。

これを継続的に、予算をできるだけ多く取ってもらって、そういう部分で水準を上げていく、あるいは、数学だけでなく英語などというところまで予算を取っていただければ、南相馬市の学力向上ってというのは、もっともっと進んでいくのかなという印象をもって、新しい事業の取組として、非常に良い政策をここに出していただいたなというふうに感じてございます。

市長

ありがとうございます。教育長、いかがですか。

教育長

やはり、中学校の数学には、全国と比較して課題がございますので、まず、手厚く教員を配置して、より良い指導法について、その教員を核としながら各学校で取り組んでいけたらなと思います。

とりあえず1名でございますけれども、来年何とかしたいなという想いです。

市長

問題は、人ですよ。今、なかなか募集しても人が集まらないというのがありますから。是非、皆さん方のネットワークで、良い人材をご紹介いただけるとありがたいなと思います。

加えて、私の仕事はきっと財源を確保したりする話で、今、基金の再編等も進めております。教育施策、こういった学力向上の教員配置等が安定的にできるということを見えるような仕組みというか、財源の見せ方、財源の確保を考えておりますので、具体的には、新年度になってから予算の中でお話しできればいいなと思っています。

やはり、教育については、1年、2年ではなくて、5年、10年続けるということでない、せっかくやってもどうかという面もありますので、そんな想いもしていますので、後ほどまたご説明させていただきたいと思います。

大石教育長職務代理者

政策の柱の最初に、教育・子育てを挙げていただいたのは、大変素晴らしいです。

さらに、その中では、学校教育、子育てが上に挙がってくるわけなんです、学校教育というと、成果指標として出てくるのが、どうしても物差しとして、色々な学力テスト等の数値なんですよ。

教育は、学力テストの点数ばかりではないというふうには言われますけども、どうしても指標として上がってくる、比較する材料として、こういう試験の点数の結果が出てくるものですから、こういったものを上げる努力も併せて力を注がないといけません。

素晴らしい性格の子ども、行いの立派な子ども、勿論そういうのも大事なんですけども、こういう指標のところにも目を向けていただいて、これを上げる努力をしていた

だきたいなと思います。

何年か、先進教育圏の視察研修等を行って、教員を派遣したり、あるいは提携方式を採用して、授業に工夫をしたりしているんですけども、それが成果に結びついていのかどうかの検証が、やっぱり必要なんじゃないのかなと思います。

新しい事業を取り組むのもいいのだけれども、現在、やってきているものを、もう少し工夫すれば、より数値に結びつくものに改良できはしないか、そんな想いを強くする部分であります。

今度、新たに数学の教員配置という部分も、事業として登場してきますが、是非、こういった部分で採用した教員を核にして、他の教員のレベルアップを図っていかないと、最終的には全体としての数値も上がらないです。

なんだかんだ言っても、こういう学力テスト等の数値が、最後は表に出てくるものですから、全国トップレベルの児童・生徒の育成というのが、何年か前に掲げられた部分であります。あれは、点数だけじゃないよというのはもちろん分かっておりますけれども、点数も是非、トップレベルあるいは真ん中より上の点数が出るように、頑張っていたいただければなというふうな想いを強くしておるわけであります。

さらに、中学校海外研修事業、これも素晴らしい。今回は、中学2年生を対象に試行モデルの実施となっています。試行モデルというのはどういう意味合いなのかな。

将来的には、もっとこれが良いという判定がなされれば、もっともっと幅を広げて多くの子ども達に体験させていくのか、あるいは、内容をよりグレードアップさせたものに変えていくのか、その辺は何ともやってみないと分からないというところです。

初めてやる事業でありますし、良いものに結び付けていただければなというふうにご考えております。期待しております。

教育長

学力向上につきましては、市民の皆様がぱっと見て分かる数値というのが、この数値なものですから、やはりそれを何とかしなければならぬ。それだけがすべて学力だとは思っていないわけですけども、それを上げるということが、第一です。

そのためには、先ほどお話がございましたけれども、一つは、授業を変えていかないとだめだと思っています。そのために、この学力向上教員を使いながら、授業改善を進めていく。先進校視察もしくは先進校との派遣交流を今、やっていますので、そういうもので授業を変えていきたい。

もう一つは、学力はやはり学校だけでは難しい部分もございます。少なくとも、学校に行くための前提条件は、家庭で整えていただくというのも大事だと思っております。その辺も働きかけながら、地域の方にもご協力をいただきながら、学力向上には取り組んでいきたいなと思っております。

海外研修につきましては、とりあえず一歩踏み出したいということで今回考えているわけですが、一番は、やはり子供たちが安全、安心で行ってこれるということだと思っておりますので、その点について、さらに細かい部分を詰めながら、何とか成功に導きたいと思っております。

市長

今回、学力調査の言葉ではなくて、教育委員会で数字にしました。言葉では全国平均を上回る等とあります。今が100であり97が実力です。これを、4年後に、103(小6)、100(中3)にするという、言葉でなくて、点数で示したということで、より見えるように教育委員会でしていただきました。機会を入れて努力をした

と思います。

海外研修については、試行モデルという話がありました。400人、500人が1学年であります。全員を一気にということは、さすがにかなり難しい面があります。

一つは、やはり安全性の問題等でどこならいいかということです。今、実は全くノウハウがありません。あとは、ホームステイを是非したいものですから、400人、500人のホームステイの対応を確保するというのも、若干時間がかかるということです。

でも、そういう意味では、不安な点は見えてるわけです。まず、20人でもいいです。スタートしてみるとまず見えるだろうということです。選抜がいいのか、一クラス全員で行ってみるクラスを設けるとかということです。

今までだと手挙げ方式で、留学等にも意欲のある子どもは、何人かは必ずいるんですよ。それはそれで素晴らしいんですけど、面白いのは一クラスみんなで、友達同士で、みんなで行くことによって、みんなでレベルが上がるということも面白いと思うんです。そんなこともこれからの課題です。

来年、一気に全部できるかという若干、不安もあります。そういった時期の問題もあります。夏休みがいいのか、どの時期がいいのか、あるいはどういうグループで行ったら効果が上がるのか、そんなことも色々試行しながらいい形を作って行きたいと思います。やるからには10年間できるような財源的な裏付け等についても担保してもらいたいと思います。

まず一步、教育委員会のほうでいろいろと考えていただいて、調査させていただいて、夏に行ける目途がつかまりましたので、大変私も楽しみにしております。

大石教育長職務代理者

そうですね。よかったという評価がされるように期待して見ていたいと思います。

市長

その他、どうでしょうか。長時間ありがとうございました。

ご意見がなければ、この主要な教育施策の(案)については以上とさせていただきます。よろしいでしょうか。

協議事項(2)その他に移ります。事務局からその他何かありますか。

事務局

特にありません。

市長

皆さん方からその他何かございませんでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

市長

ありがとうございました。

では、なければ以上で協議事項については終了させていただきます。

進行を事務局のほうにお返しいたします。

企画課長

長時間にわたり、ご協議ありがとうございました。
以上をもちまして、平成30年度第3回南相馬市総合教育会議を終了いたします。
ありがとうございました。

午後5時15分 閉会